
2025 年度 定時総会 資料

定時総会次第

【資 料】

I 役員選出

- 1) 選挙により選出された役員の選任 [1 号議案]
- 2) 会長候補が推薦する副会長及び
理事の条件付選任 [2 号議案]

II 報告事項

- 1) 委員会等の設置について (2025～2026 年度)
- 2) 代議員 (2025～2026 年度)

III 2024 年度事業報告 [3 号議案]

IV 2024 年度決算報告及び会計監査報告 [4 号議案]

V 「農業食料工学会誌」の電子ジャーナル化について [5 号議案]

VI 2025 年度事業計画 (案) [6 号議案]

VII 2025 年度予算 (案) [7 号議案]

・参考資料 1, 2

・一般社団法人 農業食料工学会 役員・代議員等名簿

・一般社団法人 農業食料工学会 委員会・部会運営委員会名簿

・一般社団法人 農業食料工学会 名誉会員名簿



学会事務局ならびに Zoom による Web 会議
2025 年 6 月 21 日 (土)

一般社団法人 農業食料工学会

目 次

定時総会 次第	2
I 役員選出 [1, 2号議案]	
1. 選挙により選出された役員の選任 [1号議案]	3
2. 会長候補が推薦する副会長及び理事の条件付選任 [2号議案]	3
II 報告事項	
1. 委員会等の設置について (2025～2026 年度)	4
2. 代議員 (2025～2026 年度)	4
III 2024 年度事業報告 [3号議案]	
1. 2024 年度定時総会	5
2. 会員集会及び学会賞表彰式	5
3. 第 82 回 (2024 年) 年次大会	5
4. 理事会	5
5. 学会員の現況	5
6. 学会誌の刊行状況	5
7. 委員会の活動	5
8. 部会の活動	9
9. 協賛・後援事業	
A. 地区ブロック活動	10
B. セミナー・学会等	15
10. 関連学会等	16
11. 業務監査	17
IV 2024 年度決算報告及び会計監査報告 [4号議案]	
1. 2024 年度決算報告	21
2. 2024 年度会計監査報告	26
V 「農業食料工学会誌」の電子ジャーナル化について [5号議案]	27
VI 2025 年度事業計画 (案) [6号議案]	
1. 2025 年度 定時総会	29
2. 会員集会及び学会賞表彰式	29
3. 第 83 回 (2025 年) 年次大会	29
4. 理事会	29
5. 委員会の活動	29
6. 部会の活動	31
7. 協賛・後援事業	
A. 地区ブロック活動	32
B. セミナー・学会等	33
8. 関連学会等	34
9. その他	35
VII 2025 年度予算 (案) [7号議案]	36
参考資料 1	19
参考資料 2	40
一般社団法人 農業食料工学会 役員・代議員等名簿	41
一般社団法人 農業食料工学会 委員会・部会名簿	42
一般社団法人 農業食料工学会 名誉会員名簿	46

定時総会 次第

－ 第7回（2025年度） －

I. 日 時：2025年6月21日（土） 10:00～12:00

II. 場 所：学会事務局ならびに Zoom によるオンライン会議

III. 次 第

1. 開会の辞

2. 議長選出・登壇

3. 会長挨拶

4. 役員選出

(1) 選挙により選出された役員の選任 [1号議案]

(2) 会長候補が推薦する副会長及び理事の条件付選任 [2号議案]

(3) 質疑

(4) 一括採決

5. 報告事項

(1) 委員会の設置について（2025～2026年度）

(2) 代議員（2025～2026年度）について

6. 2024年度事業報告及び決算報告

(1) 2024年度事業報告 [3号議案]

(2) 2024年度決算報告及び会計監査報告 [4号議案]

(3) 質疑

(4) 一括採決

7. 「農業食料工学会誌」の電子ジャーナル化について

(1) 「農業食料工学会誌」の電子ジャーナル化について [5号議案]

(2) 質疑

(3) 採決

8. 2025年度事業計画（案）

(1) 2025年度事業計画（案） [6号議案]

(2) 2025年度予算（案） [7号議案]

(3) 質疑

(4) 一括採決

9. 議長退席

10. その他

11. 次期会長候補挨拶

12. 閉会の辞

I 役員選出（１，２号議案）

1. 選挙により選出された役員の選任〔1号議案〕

下記1)及び2)の役員が規程に基づく選挙により選出された。ついては、下記の者がそれぞれの任につく事についてご承認いただきたい。

1) 理事（11名）

飯田 訓久（京都大学）	小川 幸春（千葉大学）
海津 裕（東京大学）	鹿内 健志（琉球大学）
田中 史彦（九州大学）	帖佐 直（東京農工大学）
長坂 善禎（北里大学）	西津 貴久（岐阜大学）
野波 和好（鳥取大学）	松井 正実（宇都宮大学）
森本 英嗣（神戸大学）	（以上、五十音順、敬称略）

2) 監事（2名）

大森 弘美（農研機構 農業機械研究部門）
深山 大介（農研機構 農業機械研究部門）（以上、五十音順、敬称略）

2. 会長候補が推薦する副会長及び理事の条件付選任〔2号議案〕

下記1)の会長（代表理事）候補が、規程に基づく選挙により選出された。同候補が推薦する副会長及び理事は下記2)のとおりである。ついては、同候補が、本総会後の理事会にて会長（代表理事）に選出された場合は、下記の者がそれぞれの任につく事についてご承認いただきたい。

1) 会長（代表理事）候補 飯田 訓久（京都大学）

2) 会長候補が推薦する副会長及び理事の条件付き選任

・副会長（理事）（2名）

長崎 裕司（農研機構 農業機械研究部門）
渡部 勉（井関農機（株））

・理事（2名）

川上 晃司（（株）サタケ）
王 秀崙（三重大学）

・ブロック長（理事）（5名）

・北海道ブロック長：岩渕 和則（北海道大学）
・東北ブロック長：張 樹槐（弘前大学）
・関東ブロック長：川越 義則（日本大学）
・関西ブロック長：野口 良造（京都大学）
・九州ブロック長：稲葉 繁樹（佐賀大学）

（以上、役職順、敬称略）

※以上の役員の任期：本定時総会終了時～2027年度定時総会（2027年6月開催予定）

II 報告事項

1. 委員会等の設置について（2025～2026 年度）

【委員会】

＜常設委員会＞

庶務委員会：委員長 野波 和好（鳥取大学）

財務委員会：委員長 海津 裕（東京大学）

編集委員会：委員長（論文誌担当） 田中 史彦（九州大学）

副委員長（情報誌担当） 林 和信（農研機構 農業機械研究部門）

企画委員会：委員長 川上 晃司（（株）サタケ）

表彰委員会：委員長 長坂 善禎（北里大学）

情報委員会：委員長 鹿内 健志（琉球大学）

国際交流委員会：委員長 森本 英嗣（神戸大学）

産官学連携委員会：委員長 松井 正実（宇都宮大学）

EAEF 誌編集委員会：委員長 小川 幸春（千葉大学）

＜今期設置する委員会＞

年次大会・プログラム専門委員会：担当理事 王 秀崙（三重大学）

AABEA-JSAM 委員会：委員長 帖佐 直（東京農工大学）

和文誌電子ジャーナル化委員会（新設）： 西津 貴久（岐阜大学）（以上，組織順，敬称略）

【部会】

農業機械部会：部会長 清水 一史（農研機構 農業機械研究部門）

食料・食品工学部会：部会長 川越 義則（日本大学）

IT・メカトロニクス部会：部会長 山本 聡史（秋田県立大学）

生物資源部会：部会長 田中 宗浩（佐賀大学）（以上，組織順，敬称略）

【事務局】 事務局長：宮原 佳彦

2. 代議員（2025～2026 年度）について

阿部 佳之	荒木 徹也	有馬 誠一	飯嶋 渡	飯田 訓久	石井 一暢	石田 三佳
石突 裕樹	伊藤 博通	稲葉 繁樹	今泉 鉄平	岩渕 和則	上加 裕子	臼井 善彦
梅田 直円	梅田 大樹	江川 史洋	大橋 慎太郎	大森 弘美	岡安 崇史	岡山 毅
小川 幸春	小川 寛士	折笠 貴寛	海津 裕	片平 光彦	勝野 志郎	亀井 雅浩
川上 晃司	川上 昭太郎	川越 義則	河野 元信	木村 敦	木下 統	栗原 英治
黒木 信一郎	小出 章二	河野 靖	小関 成樹	小林 鑑明	小林 研	小林 有一
小松崎 将一	是田 稔	近藤 直	紺屋 朋子	紺屋 秀之	坂垣内 貴保	佐々木 豊
佐藤 禎稔	佐野 安信	鹿内 健志	志藤 博克	清水 一史	新熊 章浩	杉浦 綾
鈴木 剛	鈴木 尚俊	五月女 格	高塚 裕一	高橋 仁康	竹中 秀行	建石 邦夫
田中 史彦	田中 宗浩	張 樹槐	帖佐 直	塚本 茂善	辻 八州仁	長坂 善禎
長崎 裕司	中野 浩平	難波 和彦	西津 貴久	西村 秀司	野口 伸	野口 良造
野波 和好	萩原 昌司	長谷川 英夫	八谷 満	平井 康丸	藤岡 修	藤本 与
本田 善文	前田 武己	松井 正実	松川 雅彦	松原 一晃	水野 英則	三宅 康司
深山 大介	村上 徹司	森尾 吉成	森本 英嗣	門田 充司	矢野 典弘	叶 旭君
渡辺 史郎	渡部 勉					

（以上，五十音順，所属・敬称略）

Ⅲ 2024 年度事業報告 [3号議案]

1. 2024 年度定時総会を次の日程で開催した。

期日：2024 年 9 月 7 日（土）

場所：山形大学 農学部 鶴岡キャンパス 3 号館 3 階 302 講義室

2. 会員集会及び学会賞表彰式を次の日程で開催した。

期日：2024 年 9 月 8 日（日）

場所：山形大学 農学部 鶴岡キャンパス 3 号館 3 階 302 講義室

3. 第 82 回（2024 年）年次大会を次の日程で開催した。

期日：2024 年 9 月 7 日（土）～ 9 月 9 日（月）

場所：山形大学 農学部 鶴岡キャンパス（山形県鶴岡市若葉町 1-23）

4. 理事会を次の日程で開催した。

第 1 回：2024 年 6 月 1 日（土） Zoom によるオンライン会議

第 2 回：2024 年 7 月 3 日（水）～ 17 日（水） グループウェア審議

第 3 回：2024 年 7 月 29 日（月）～ 8 月 15 日（木） グループウェア審議

第 4 回：2024 年 9 月 7 日（土） 山形大学農学部鶴岡キャンパス 3 号館 3 階 302 講義室

第 5 回：2024 年 10 月 21 日（月）～ 31 日（木） グループウェア審議

第 6 回：2024 年 12 月 7 日（土） Zoom によるオンライン会議

第 7 回：2024 年 12 月 25 日（月）～2025 年 1 月 10 日（金） グループウェア審議

5. 学会員の現況

農業食料工学会会員数とその地区別・資格別内訳を表 1、表 2（参考資料 1）に示す。

6. 学会誌の刊行状況

農業食料工学会誌第 86 巻第 1 号～第 87 巻第 2 号の構成を表 3 に示す。

7. 委員会の活動

1) 庶務委員会

・拡大委員会：3 回開催

第 1 回：2024 年 5 月 28 日（火） Zoom によるオンライン会議

第 2 回：2024 年 9 月 4 日（水） Zoom によるオンライン会議（財務、編集委員会と合同）

第 3 回：2024 年 12 月 3 日（火） Zoom によるオンライン会議（編集委員会と合同）

・委員会：以下の打ち合わせの他、随時、メール・電話にて連絡及び打合せを行った。

庶務委員会内打ち合わせ：2024 年 9 月 2 日（月） Teams によるオンライン会議

・定時総会、理事会（7 回開催）の運営業務を行った。

・他学協会の事業への協賛受諾、当学会の事業への協賛依頼など、文書の接受及び施行の業務を行った。

・当学会が所属する学協会・学術団体への役員、委員などの選任及び表彰事業等に関する推薦を行った。

2) 財務委員会

- ・財務委員会：随時実施した。
- ・2024年9月4日（オンライン会議）に、学会誌の電子ジャーナル化に関する事項について検討した。
出席者：会長、庶務委員会（委員長、幹事）、財務委員会（委員長、幹事）、編集委員会（委員長、幹事）、事務局長
- ・2024年度決算（表4、5、6、7）を検討し作成した。
- ・各委員会、部会からの収支報告および来年度予算配分希望を取りまとめ、2025年度予算（案）（表8、9）を検討して作成した。

3) 編集委員会

- ・情報誌担当小委員会：随時、メール・電話にて会議を行った。
- ・論文誌担当小委員会：随時、メール・電話にて会議を行った。
- ・学会誌第86巻3号から第87巻3号の編集・発行
- ・第16回（20243年）論文賞（研究論文・技術論文）候補を選考し、理事会の承認を経て次の通り決定した。
 - ◇論文賞（研究論文）：風選別精度リアルタイム検知システムの構築. 農業食料工学会誌，第86巻6号，（著者：横川 巧・上加 裕子・大畑 秀平・有馬 誠一）
 - ◇論文賞（技術論文）：小型汎用コンバインの開発. 農業食料工学会誌，第86巻1号，（著者：嶋津 光辰・梅田 直円・木村 敦・野波 和好）
- ・J-STAGEに86巻1、2号までを公開した。（2025年5月1日）

4) 企画委員会

- ・委員会：4回開催
 - 第1回：2024年6月7日（金）東京ビッグサイトにて開催（第18回フーテックと同時開催）
 - 第2回：2024年9月8日（日）山形大学農学部にて開催（合同大会と同日開催）
 - 第3回：2024年11月8日（金）農機研（大宮）にて開催（第29回テクノフェスタと同時開催）
 - 第4回：2024年12月12日（木）Web開催
- ・シンポジウム：2回開催
 - ① フードテクノロジー（フーテック）フォーラム2024
テーマ：『スマートフード技術の新展開 ～新技術でフードロス低減と豊かな食卓を～』
日時：2024年6月7日（金）10:30～15:20
場所：東京ビッグサイト東8ホールセミナー会場
参加人数：197名
 - ② 第29回テクノフェスタ
テーマ：『ロボティクス技術の現場導入の加速化に必要な取組』
日時：2024年11月8日（金）11:00～18:00
場所：農機研（大宮）にて対面開催
参加人数：145名

5) 表彰委員会

- ・2025年度（令和7年度）学会賞の選考を行った。決定した受賞者は次の通りである。
 - ◇学術賞：なし

◇森技術賞：重松 健太（代表者，農研機構 農業機械研究部門），難波 和彦（岡山大学 大学院 環境生命科学研究科），山田 祐一（農研機構 農業機械研究部門），後藤 隆志（元農研機構 農業機械研究部門）、アグリテクノサーチ（株）、小橋工業（株）
受賞業績：「大豆用高速畝立て播種機の開発」

◇研究奨励賞：なし

◇技術奨励賞：梅野 覚（農研機構 農業機械研究部門）

受賞業績：「ループ式ハンドルを有する歩行用トラクタにおける挟まれ現象の力学的特性の解明」

◇国際賞：なし

◇功績賞：

正会員：近藤 直 氏（京都大学）

特別会員：株式会社 太陽

- ・2025 年度（令和 7 年度）日本農学賞候補者の募集を行ったが推薦がなかった。
- ・日本農業工学賞 2025 候補者の選考を行い，候補者を決定した。

6) 情報委員会

- ・会員メーリングリストへの情報配信

学会からのお知らせ，年次大会，主催・協賛・後援・関連イベント，教員・研究員公募などの情報配信

- ・会員メーリングリストのアドレス管理

新規入会者，退会者，アドレス変更，各種メーリングリストの更新

- ・学会 Web サイトの情報更新

学会からのお知らせ，年次大会，主催・協賛・後援・関連イベント，教員・研究員公募などの情報掲載

7) 国際交流委員会

- ・11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB 2024)をインドネシア・バリ島にて 2024 年 9 月 27 日～29 日の日程で開催した。参加者は JSAM：105 名，CIAM：99 名，KSAM：65 名，ISAE，ACABE：30 名であった。次回の ISMA B2026 は韓国・KSAM の主催で韓国・釜山で開催する予定である。

- ・「当学会のより強固な国際協力体制を構築する」ことを目的に，会員のこれまでの国際交流の実績情報を取りまとめるアンケート調査（第 1 回目）を 8/30～9/15 の日程で実施した。本アンケート調査を基に，より具体的かつ詳細な調査（第 2 回目）を実施する予定である。

8) 産官学連携委員会

- ・委員会：2 回開催

第 1 回産官学連携委員会

日時：2024 年 9 月 9 日（月）12:00～12:40

場所：山形大学農学部 102 講義室，teams 会議併用

議事：1. 報告事項：開発賞の選考等に関する進捗状況

2. 検討事項：1) 採点の平均化作業について

2) 採点項目の見直しについて

第 2 回産官学連携委員会

日時：2024 年 10 月 1 日（火）～10 月 7 日（月）

場所：メール審議

議事：1. 検討事項：1) 第1回産官学連携委員会の議事録の確認
2) 開発賞の採点項目、推薦書の変更

- ・2024年度（令和6年度）開発賞は、理事会の承認を経て次の通り決定した。

◇開発特別賞（1件）：

マルチインブルメント ブームマスターZ：(株)ササキコーポレーション

◇開発賞（3件）：（50音順）

乗用型じゃがいも植付機（1条）の開発：井関農機(株)

施設園芸向けしおれ検知式自動灌水制御システム（Hamirus：ハミルス）の開発：(株)クボタ

小型ディスクハロー「KUSANAGI」の開発：三菱マヒンドラ農機(株)

- ・第29回テクノフェスタにて、2024年度開発賞受賞講演を、企画委員会と共同で開催した。

9) EAEF 誌編集委員会

- ・編集委員会

2回開催（9月8日、9月27日）

その他、メールによって副委員長、監事、ScholarOne 担当者らと適宜意見交換、メール審議を進めた。

- ・編集長オンライン会議

2回開催（9月27日、12月26日）

- ・DOAJ への登載について

雑誌の質を保証するデータベースである DOAJ に登載された（11月13日）。

- ・EAEF 誌への投稿状況について

2024年11月26日から2025年5月23日までの投稿論文取り扱い状況は以下の通り。

新規投稿受付：41編（うち Research Article 37編、Special Issue ISMAB2024 4編）

閲読中原稿：20編

受理済原稿：14編（Research Article 13編、Methods Article 1編）

- ・EAEF の第17巻第1号から第4号を J-STAGE で公開した。

10) AABEA-JSAM 委員会

・AABEA(Asian Agricultural and Biological Engineering Association)に参画する学会として、ISMAB(International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering)および英文誌 EAEF(Engineering in Agriculture, Environment and Food)に係る、KSAM(韓国農業機械学会)、CIAM(台湾農業機械学会)等との協議や調整について、本委員会がこれに当たった。

・第11回 ISMAB (International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB 2024) , 2024年9月27日(木)～29日(日) , インドネシア・バリ島)を幹事学会として開催する上で、本委員会が主要な任務に当たった。

11) 広報・会員対応委員会

- ・会員の拡大に向けた今後の対応等について検討を開始した。
- ・インドネシアでの ISMAB2024 において配布するための、本学会の PR パンフレットを作成した

12) 他学会対応委員会

- ・関連学会の情報を収集し、今後の対応等について検討を行った。

13) 年次大会・プログラム専門委員会

- ・農業食料工学会 第 82 回（2025 年）年次大会
期日：2024 年 9 月 7 日（土）～9 日（月）
場所：山形大学 農学部 鶴岡キャンパス（山形県鶴岡市若葉町 1-23）
- ・委員会：対面での会議及びオンライン・メール会議等を適宜実施した。
- ・大会内容：講演発表（口頭 116 件（一般セッション 52 件，オーガナイズドセッション 64 件），ポスターセッション 26 件，企業展示 11 件，シンポジウム，定時総会，会員集会（学会賞表彰式），理事会，各種委員会を開催
- ・参加者：210 名（一般会員 122 名，一般非会員 16 名，学生 72 名）

8. 部会の活動

1) 農業機械部会

- ・運営委員会：メール会議およびテクノフェスタ，セミナー開催に合わせて対面で実施した。
- ・2024 年度第 29 回テクノフェスタに農業機械部会として「農業機械ロボットの技術開発と課題」と題する講演（3 件）を企画し，2024 年 11 月 8 日（金）農研機構農業機械研究部門で開催した。参加申込者は会員他 145 名であった。
- ・2024 年度農業機械部会セミナーを 2025 年 3 月 5 日（水）に農研機構農業機械研究部門で開催した。農作業安全をテーマに，午前は VR による農作業事故体験会を，午後は農作業事故の実態，農作業安全の考え方，また近年導入が進んでいるロボット農機における安全について，5 件の講演と総合討議を行い，参加申込者は農作業事故体験会 16 名，セミナー 44 名であった。

2) 食料・食品工学部会

- ・運営委員会
メール審議：2 回（1 月 29 日，5 月 10 日）
その他：メールによって副部会長，幹事と適宜意見交換を進めた。
- ・令和 6 年度第 29 回テクノフェスタ
食料・食品工学部会として「3D フードプリンティングのエンジニアリング」をテーマとして 2 題の後援を実施した（2024 年 11 月 8 日（金）16:35～17:45）。
講演 1. 3DFP のためのプロトタイプ環境の提案および三次元点群処理による印刷精度評価
→吉村正俊（東京大学）
講演 2. 3D フードプリンティングへの数値流体力学シミュレーションの応用
→五月女格（東京大学）

3) IT・メカトロニクス部会

- ・運営委員会：1 回開催
第 1 回：2024 年 9 月 4 日 年次大会開催期間中に対面で開催
- ・年次大会において 2 つのオーガナイズドセッションを開催。
「データ駆動型農業のための AI・植物センシング技術」「農業用小型ロボットの可能性」
- ・企画委員会の依頼により，第 29 回テクノフェスタで自動運転分科会を企画，運営。テーマ「中山間地が元気になるスマート農業技術」
- ・セミナーの開催：2024 年 10 月 7 日 16:00～17:00 Zoom によるオンライン開催
テーマ：「農業食料工学分野における海外での活動を学ぶ」
講師・タイトル
田中正浩（農研機構 農機研）・ISO13482 のサービスロボットの安全に関する国際動向

梅田大樹（日本大学）・オランダ農学研究の魅力
安永円理子（東京農工大学）・ベトナム農業の現状と課題

4) 生物資源部会

- ・運営委員会：2回開催
- ・農業食料工学会第82回（2024年）年次大会において1件のオーガナイズドセッションを共催で実施した。

0-1：地域生物資源の6次産業化技術

Technology for primary producer's diversification into processing and distribution (sixth sector industrialization) of regional biological resources

- ・2024年度第29回テクノフェスタにおいて生物資源分科会を開催した。
- テーマ：「脱炭素施策・カーボンクレジット流通における生物資源循環技術への期待」
- ・生物資源部会によって一昨年度出版した書籍に関連し、英語版書籍の出版について検討をすすめた。

9. 協賛・後援事業

A. ブロック活動

1) 北海道ブロック（北海道農業機械学会）

- ・テーマセッション2024『農業機械の安全(設計製造)』

期日：2024（令和6）年9月12日（木） 10時～12時

場所：帯広市とかちプラザ

内容：進行 ブロック長竹中秀行(北海道農業機械工業会)。

(1) 機械のリスクアセスメントとリスク低減の一般原則

— 機械安全規格に基づく設計者が知っておくべきポイント —

労働安全衛生総合研究所新技術安全研究グループ 部長 齋藤 剛氏

ISO2100(JIS B9700)にある機械類の安全性、安全設計のための一般原則、設計・製造技術者の認識すべき機械のリスクアセスメントとリスク低減の一般原則について

(2) 作業者の身になって考える安全で使いやすい機械作りのヒント

農研機構農業機械研究部門システム安全工学研究領域 グループ長 菊池 豊氏

作業者の身になって考える安全で使いやすい機械作りのヒントとして年齢と性別による体格、身体能力の違いによる作業の難易、ユニバーサルデザインについて

(3) 参加者：道内農機メーカー開発・設計関係者など21名

2) 東北ブロック（農業食料工学会東北支部）

- ・令和6年度農業食料工学会東北支部大会の開催

大会実行委員長 冠 秀昭氏（農研機構東北農業研究センター）

期日：令和6（2024）年8月21日（水）～22日（木）

場所：農研機構東北農業研究センター

内容：研究発表会、総会、シンポジウム

(1) 研究発表会（42名参加）

口頭発表9課題、ポスター4課題

(2) シンポジウム（68名参加）

農研機構東北農業研究センターの金井源太氏の司会で「多様化する環境に対応するスマート農業技術の現状と課題」をテーマとし、以下の話題提供をいただいた。

1) 気候変動が農業に及ぼす影響とその対応

- 農研機構東北農業研究センター 大久保さゆり 氏
- 2) 岩手県におけるスマート農業推進の取り組み
- 岩手県農林水産部農業普及技術課 宮川英幸 氏
- 3) 多様な環境に対応するスマート農業技術に関する取り組み
- ヤンマーアグリジャパン株式会社 阿部 茂 氏

(3) 総会

議長 大谷隆二氏（東北大学大学院農学研究科）

1) 令和 5 年度事業報告、決算及び監査報告、並びに令和 6 年度事業計画及び予算案の承認

2) 支部賞

令和 6 年度支部賞（奨励賞・功績賞）は、次の各氏に授与された。

功績賞： 青田聡氏（福島県農業総合センター）

奨励賞： 山下善道氏（農研機構東北農業研究センター）

3) ベストプレゼンテーション賞

ベスト発表賞： 千葉祐太（青森県産業技術センター農林総合研究所），他 2 名 「ロボットトラクタの無人道路走行を利用した複数台運用による省力性の検証」

学生会員奨励賞（2 件）：

① 滝村恋奈（岩手大学大学院），他 3 名 「画像分類および生体電気インピーダンス法によるホール果実の過冷却保存の可能性検証」

② 高橋知秀（弘前大学農学生命科学部），他 2 名 「小型 IoT 機器を用いたトマト糖度の非破壊分光測定」

4) 情報交換会

5) 現地見学会（32 名参加）

8 月 22 日（木）に、農事組合法人金田一営農組合および岩手県農業研究センター県北研究所を見学し、それぞれ説明を受けた。

・ 幹事会

(1) 第 1 回常任幹事会 令和 6（2024）年 8 月 20 日（火）

(2) 令和 6 年度幹事会 令和 6（2024）年 8 月 21 日（水）

(3) 第 2 回常任幹事会 令和 7（2025）年 3 月 25 日（火）

・ 支部報第 71 号（令和 6（2024）年 12 月発刊）

研究報告 1 編

トピックス（功績賞を受賞して、奨励賞を受賞して）

支部会記事（庶務報告及び会計報告、令和 6 年度研究発表会プログラム、支部役員及び役員体制、規約・規程等）

- ・ 若手の会：令和 6（2024）年 8 月 20 日（火）に若手研究者の意見交換会が行われた。参加者は 10 人（学生 5 人，社会人 5 人）であった（若手の会代表：田邊大氏（農研機構東北農業研究センター））。

3) 関東ブロック（関東農業食料工学会）

- ・ 2024 年度 関東農業食料工学会第 60 回年次報告

期日：2024 年 8 月 9 日（土）

場所：オンライン Zoom

内容：評議員会，総会

参加者数：評議員会 出席 19 名，委任状 11 名，欠席 6 名，および総会 出席約 30 名

・2024 年度 関東農業食料工学会第 60 回年次大会

期日：2025 年 2 月 15 日（土）

場所：千葉大学松戸キャンパス

参加者数：35 名

内容：講演会・臨時評議員会・ベスト・ペーパー奨励賞審査

講演 22 件

ベスト・ペーパー奨励賞：

「アルキメデインスクリューを用いた水陸全方位移動ロボットの開発―整地での直進走行を可能とする制御システムの検討―

東京農工大学 源田谷 遥斗氏

・第 8 回初学の会

期日：2025 年 2 月 15 日（土）

場所：千葉大学松戸キャンパス

テーマ：「AI やロボットで 100 年先も続く持続可能な農業を実現へ」

講師：尾見 喜信 氏（AGRIST 株式会社）

参加者：53 名

・2024 年度 関東農業食料工学会セミナー（学会創基 60 周年記念）

期日：2025 年 2 月 15 日（土）

場所：千葉大学松戸キャンパス

テーマ：農業食料工学の 10 年の歩みと未来展望

講師：長崎 裕司 氏（農研機構農業機械研究部門）

トファエル アハメド 氏（筑波大学生命環境系）

土方 享 氏（全農施設農住部）

参加者：約 60 名

・役員会（オンライン）

第 1 回（5.8），第 2 回（7.24），第 3 回（10.9），第 4 回（12.23），第 5 回（1.29），第 6 回（3.10）

・評議員会（メール審議）

臨時（11.25，3.12）

・関東農業食料工学会報

No. 164（6.28），No. 165（10.10），No. 166（1.14），No. 167（4.18）発行済

4) 関西ブロック

・第 152 回例会

期日：2024 年 10 月 12 日（土）～13 日（日）

場所：岐阜大学応用生物科学部

内容：見学会，懇親会，研究発表会（講演件数 32 件）

参加者数：見学会 21 名，懇親会 28 名，研究発表会 53 名

各賞受賞者：

・技術開発賞 近江度量衡株式会社

「ボックスフィリング定量箱詰めシステム」

・奨励賞

朱佳俊 氏（京都大学大学院農学研究科）

「ロボットコンバインのための深層学習を用いた物体検出」

・学生プレゼンテーション賞

松尾 絢海（京都大学大学院農学研究科）

「LCA と包絡分析法を用いた有機茶栽培の持続可能性指標の提案
— 京都府におけるケーススタディー」

久保田 慧斗（三重大学大学院生物資源学研究科）

「微細藻類および木質バイオマスの活性炭の評価」

武田 夏実（神戸大学大学院農学研究科）

「栽培後期の降温処理が白花蛇舌草の成長と asperuloside 含量に与える影響」

深尾 陽（岐阜大学大学院自然科学技術研究科）

「ブランピングが冷凍ジャガイモの氷結晶形成に及ぼす影響」

・2024 年度第 1 回幹事会

期日：2024 年 10 月 12 日（土）

場所：岐阜大学応用生物科学部

・第 153 回例会

期日：2025 年 3 月 3 日（月）

場所：京都大学大学院農学研究科 農学部総合館

内容：研究発表会（講演件数 66 件），学生ベストプレゼンテーション賞表彰

参加者数：78 名

学生ベストプレゼンテーション賞受賞者：

Jean Keiko Putri（京都大学農学部）

「Machine Learning-Based Quality Classification of Green Bell Peppers(*Capsicum annuum*
L.) Using Multi-Modal RGB/NIR/UV Imaging」

山田壮真（三重大学生物資源学部）

「人間協調型農業ロボットによる作業支援のための全方位環境認識システムの開発」

堂野真由佳（神戸大学農学部）

「気温を入力，サフラン子球のシンク強度を出力とする伝達関数の解明 —出力値の非破壊計
測—」

石川璃雄（大阪府立大学工学域）

「Unreal EngineのVR環境とハンドトラッキングを用いた多関節ロボットの操作」

伊東万織（三重大学生物資源学部）

「三重県産かぶせ茶の紫外励起蛍光画像における遮光条件の影響」

梶村星七（神戸大学農学部）

「磁気力を用いた物質分離プロセスにおける滞留時間の影響」

・2024 年度第 2 回幹事会

期日：2025 年 3 月 3 日（月）

場所：京都大学大学院農学研究科

- ・会報第136号発行：2024年6月1日
- ・会報第137号発行：2025年2月1日

5) 九州ブロック

- ・2024年度幹事会の開催
期日：2024年8月31日（土）
場所：宮崎県県電ホール
- ・第78回例会の開催
期日：2024年9月1日（日），2日（月）
場所：宮崎県県電ホール
研究発表 16件
ポスター発表 13件
特別講演
 - ・「普通期水稻における，代かきから水管理までのスマート農業機械の体系的活用による労働時間削減効果」 白川陽一朗（宮崎県総農試）
 - ・「サツマイモ基腐病対策とスマート農業技術の利用」 石井孝典（農研機構九州研）
 - ・九州沖縄地域公設研究機関紹介
- ・学会誌第73号の刊行
- ・学生合同合宿の開催
期日：2024年11月23日（土），24日（日）
場所：九州大学農学部附属演習林 福岡演習林
九州地区（九州大，佐賀大，宮崎大，鹿児島大，琉球大）の学部4年生の卒業研究の進捗報告とブラッシュアップを目的に開催
- ・歩行用トラクタコンペティションの開催
期日：2024年9月2日（月），3日（火）
場所：宮崎県県電ホール及び宮崎大学
九州の5大学から参加。参加チームによるコンペ参加の取り組みに関するプレゼンテーションおよび歩行用トラクタの実技の競技会
- ・農機・農産関連メーカー 業界紹介セミナー（学生対象）
期日：2024年9月2日（月），3日（火）
場所：宮崎県県電ホール
農機・農産関連メーカーが九州の各大学をリクルート活動で回っている現状を踏まえ，農機・農産の専攻学生が多数集まる，例会，歩トラコンペの機会を利用して，会社説明会を開催。参加予定企業（キセキ九州，オーレックホールディングス，サタケ，三菱マヒンドラ農機，ヤンマーアグリジャパン(株)九州支社）
- ・九州農業食料工学会賞の表彰
令和6年度九州農業食料工学会賞 井手 治（福岡県農林総合試験場筑後分場）
「園芸作物栽培の高度化技術の研究」
- ・第8回卒業論文強化合宿の開催
日時：令和6年11月23日（土）13:00～ 11月24日（日）12:30
場所：九州大学農学部附属演習林（〒811-2415 福岡県糟屋郡篠栗町津波黒 394）
本合宿では，学部4年生を対象に卒業研究の中間発表（研究内容，進捗状況の説明等）を九州の5大学（九州，佐賀，宮崎，鹿児島，琉球大学）で共同開催すると同時に，各発表に対して教員や研究者・技術者などから十分な時間を取って質疑や改善指導を行うことにより，参加学生の

卒業研究内容のブラッシュアップや研究に対する意識・意欲の向上を図ることを目的として開催。

B. セミナー・学会等

- 1) 第152回ロボット工学セミナー
主催：（一社）日本ロボット学会
開催日：2024年5月23日 日立製作所中央研究所（東京都国分寺市）及びオンライン開催
- 2) フード・フォーラム・つくば 夏の例会講演会
主催：フード・フォーラム・つくば 共催：農研機構 食品研究部門
開催日：2024年6月19日 つくば国際会議場（茨城県つくば市）
- 3) 第153回ロボット工学セミナー
主催：（一社）日本ロボット学会
開催日：2024年6月25日 オンライン開催
- 4) 生態工学会 一般公開シンポジウム
主催：生態工学会，愛媛大学
開催日：2024年6月29日 愛媛大学農学部 大講義室（愛媛県松山市）及びオンライン開催
- 5) 第154回ロボット工学セミナー
主催：（一社）日本ロボット学会
開催日：2024年7月17日 オンライン開催
- 6) 日本機械学会 関西支部 第392回講習会
主催：（一社）日本機械学会 関西支部
開催日：2024年7月29日～30日 大阪科学技術センター8階中ホール（大阪府大阪市）
- 7) 第40回ファジィシステムシンポジウム（FSS2024）
主催：日本知能情報ファジィ学会（SOFT）
開催日：2024年9月2日～4日 椙山女学園大学 星が丘キャンパス（愛知県名古屋市）
- 8) 第156回ロボット工学セミナー
主催：（一社）日本ロボット学会
開催日：2024年9月19日～20日 芝浦工業大学 豊洲キャンパス（東京都江東区）及び（株）ティアフォー（東京都品川区）
- 9) 第45回日本熱物性シンポジウム
主催：日本熱物性学会
開催日：2024年10月28日～30日 シティホールプラザ「アオーレ長岡」（新潟県長岡市）
- 10) APFITA 2024（第14回アジア太平洋農業情報技術連盟国際会議）
主催：農業情報学会
開催日：2024年11月6日～8日 つくば国際会議場（茨城県つくば市）
- 11) JSME The 8th International Conference on Advanced Mechatronics（ICAM 2024）
主催：日本機械学会
開催日：2024年11月6日～8日 北九州国際会議場（福岡県北九州市）
- 12) 第40回近赤外フォーラム
主催：近赤外研究会
開催日：2024年11月13日～11月15日 東京大学農学部 弥生講堂（東京都文京区）
- 13) 第67回自動制御連合講演会
主催：システム制御情報学会（幹事学会），計測自動制御学会，日本機械学会，化学工学会，精密工学会，電気学会，日本航空宇宙学会
開催日：2024年11月23日～11月24日 姫路商工会議所（兵庫県姫路市）

- 14) (一社) 日本機械学会 特別講演会
主催：(一社) 日本機械学会
開催日：2024 年 11 月 26 日 オンライン開催
- 15) 2024 年度オートムセミナー
主催：(一社) 日本フルードパワーシステム学会
開催日：2024 年 11 月 28 日 オンライン開催
- 16) 第 33 回微粒化シンポジウム
主催：日本液体微粒化学会
開催日：2024 年 12 月 17 日～18 日 広島国際会議場（広島県広島市）
- 17) 第 25 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2024)
主催：公益社団法人 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門
開催日：2024 年 12 月 18 日～20 日 アイーナいわて県民情報交流センター（岩手県盛岡市）
- 18) 日本機械学科関西支部 第 369 回講習会
主催：(一社) 日本機械学会 関西支部
開催日：2025 年 1 月 20 日～21 日 オンライン開催
- 19) 2024 年度ウィンターセミナー
主催：(一社) 日本フルードパワーシステム学会
開催日：2025 年 3 月 14 日 オンライン開催

10. 関連学会等

1) 日本学術会議

協力学術研究団体として日本学術会議の活動に協力した。本会会員からは、第 26 期（2023 年 10 月～2026 年 9 月）の連携会員に、飯田訓久氏、伊藤博通氏、岡安崇史氏、澁澤 栄氏、高橋憲子氏、野口 伸氏、羽藤堅治氏、安永円理子氏が所属し、その任に当たった。

2) 日本農学会

日本農学会の加盟学会として活動を行った。当学会の代表者として、飯田訓久氏がその任に当たった。また、運営委員として、五月女格氏がその任にあたった。

・第 95 回（2024 年度）日本農学大会

日時：2024 年 4 月 5 日（金）10:00～16:30

場所：東京大学農学部 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）及びオンライン配信

3) 日本農業工学会

日本農業工学会の所属学会として活動を行った。副会長として、飯田訓久氏がその任に当たった（任期：2024 年 5 月～2027 年 5 月）。また、正会員代議員として澁澤 栄氏、海津 裕氏がその任に当たり、国際会員代議員として五月女 格氏がその任に当たった（任期：2024 年 5 月～2027 年 5 月）。

・第 40 回（2024 年度）日本農業工学会総会

日時：2024 年 5 月 12 日（日）11:30～12:30

場所：東京大学農学部 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー（東京都文京区弥生 1-1-1）

・2024 年度日本農業工学会フェロー・学会賞・新農林社賞授賞式、日本農業工学会賞 2024 受賞者講演会

日時：2024 年 5 月 12 日（日）13:00～16:10

場所：東京大学農学部 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー（東京都文京区弥生 1-1-1）

4) 農業環境工学系学会連盟

連盟の所属学会として活動した。委員として飯田訓久氏が、幹事として北村 豊氏がそれぞれの任に当たった。

5) AABEA (EAEF, ISMAB)

AABEA(Asian Agricultural and Biological Engineering Association)および英文誌 EAEF (Engineering in Agriculture, Environmental and Food), ならびに ISMAB(International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering)に係る, CIAM(Chinese Institute of Agricultural Machinery), KSAM(Korean Society for Agricultural Machinery)との協議や調整について, AABEA-JSAM 委員会がこれに当たった。

ISMAB2024 (2024 年 9 月 27 日 (金) ~29 日 (日), インドネシア・バリ島)を幹事学会として, 共同開催した。

11. 業務監査

・2025 年 4 月に, 監事による業務監査が行われ, その結果, 監事より下記の報告があった。

1) 委員会等の業務活動状況

活動の進展度は 14 委員会・4 部会中, 「予定以上」が EAEF 誌編集委員会の 1 委員会, 「予定以下」は広報・会員対応委員会及び他学会対応委員会の 2 委員会で, 他の 15 委員会等が「予定通り」であった。

予定以下となった理由として, 広報・会員対応委員会では「会員増に向けた具体案を出すことができなかった」ことが挙げられている。しかし, 昨年度に新設された委員会であり, 長年の課題に対する解決策を見いだすのは容易ではなく, やむを得ない部分があることが認められ, 今後も継続した取組が望まれる。また, 他学会対応委員会では「学会連携に寄与することができなかった」ことが理由として挙げられているが, 日本農業工学会と連携した若手研究者の国際学会参加支援事業を展開できており, 活動内容は一定の評価に値するものと判断される。

「予定以上」とした EAEF 誌編集委員会については, DOAJ への登載を完了し投稿数は増加傾向とのことであり, 今年度の活動が英文誌の信頼性向上につながったことを高く評価したい。

2) 委員会等の会議と参加率

各委員会等では, 会議 (Web 含む) またはメールで協議により打ち合せや方針決定を行っている。会議及び協議の開催数は昨年度とほぼ同じであった。これらへの委員の参加率は, 「高い」が 11 委員会等, 「普通」が 6 委員会等, 「無回答」が 1 委員会であった。昨年度 1 件あった「低い」はなくなったものの, 「高い」の回答率は, 昨年度の 66.7%から今年度は 61.1%にやや低下している。他学会対応委員会では, 会議やメール協議が一切行われておらず, 6 名の委員から構成される委員会が機能したとは判断しにくい。委員各位が多忙な状況で, 学会業務に時間が割けなかったことはやむを得ないと考えられるが, 今後の改善が望まれる。中には農業機械部会のように会議・メール協議ともに活発に行い, 委員の参加率も高い部会もあることから, Web 会議やメール協議などを一層活用し, 活発な活動をお願いしたい。

3) 学会からの予算配分

学会から予算配分を受けている 11 委員会等のうち 10 委員会等が予算金額を「適切」と評価した。また, 予算配分額を把握していない (無記載) 委員会等があった。特に, 国際交流委員会には, 若手研究者支援及び国際交流支援として多額の予算が配分されており, 適正執行のために正確な予算額の把握に

努められたい。

4) 学会活動に対する提案意見

第 82 回年次大会は、対面で行う単独大会としては 2017 年大会以来の開催となった。年次大会担当・プログラム専門委員会からは、引継ぎ資料が少なく準備等に時間を要したとのことで、次回以降のスムーズな運営のために引継ぎ資料の電子ファイル化が提案されている。本学会主催の他のイベントの多くは、既に電子ファイルによる引継ぎがされていると思われるが、その他の委員会・部会業務も含め、円滑な引継ぎによる後任者の負担軽減に心掛けていただきたい。

広報・会員対応委員会からは、今年度の活動内容に関する反省点が報告されているが、会員増対策は重要かつ難しい課題であるため、一委員会に委ねるのではなく学会全体として、学会運営に係る業務の簡略化・効率化による負担軽減や本学会のプレゼンスを高める有用な情報の創出とその発信方法などを継続して検討していく必要があるものと思われる。

学会誌については、87 巻より年 4 回発行となり、さらに 88 巻からは電子ジャーナル化が予定されるなど、発行体制の見直しが行われたことにより、経費の削減及び編集作業の負担軽減が見込まれる。電子ジャーナル化に関しては、会員への丁寧な周知に留意いただきたい。

また、英文誌編集委員会では、DOAJ への登録に続いて、ESCI への申請を進めてインパクトファクターの取得を目指すなど、学会のプレゼンス向上や活性化に向けた活動をしている。発行体制見直しを進めた編集委員会と合わせて、その精力的な活動に謝意を表したい。一方で、投稿数の増加に伴う編集業務の負担増対策を問題として挙げている。財務委員会からは「繰越金漸減対策として引き続き学会誌の発行形態を検討することが必要である。」との提案がされている中で難しいと思われるが、和文誌発行経費の節減分の一部流用など何らかの方策が必要と考えられる。

5) 総括

2024 年度の本学会の活動状況においては、コロナ禍による影響はほぼ払拭され、全般的に活発であったと評価される。学会誌の経費削減と編集作業の負担軽減や、EAEF 誌への投稿数増加といった成果が上がり、各委員会等への参加率も概ね高く、尽力された各委員・担当者に敬意を表する。一方で、会員数・繰越金の漸減といった一朝一夕では解決が見込めない難題を抱えているが、一委員会に任せるのではなく、学会全体で継続的に意見を交わしてゆく必要がある。また、各委員・担当者が所属する組織における業務量の増加や人手不足等により、学会活動が益々困難になりつつある中、学会業務の効率化及びコミュニケーションの活性化を進め、特定の委員等への負担の集中を避ける体制作りが急務である。

【参考資料 1】

表 1 正会員数の地区別内訳

2025（令和 7）年 5 月 22 日現在

【北海道ブロック】					
北海道	53 名	新 潟	10 名	岡 山	4 名
小計	53 名	富 山	0	広 島	23
【東北ブロック】		山 梨	0	徳 島	1
青 森	9 名	長 野	11	香 川	1
岩 手	12	静 岡	9	愛 媛	37
宮 城	4	小計	239 名	高 知	2
秋 田	4	【関西ブロック】		小計	258 名
山 形	6	石 川	4 名	【九州ブロック】	
福 島	5	福 井	1	山 口	1 名
小計	41 名	岐 阜	4	福 岡	17
【関東ブロック】		愛 知	6	佐 賀	5
茨 城	64 名	三 重	12	長 崎	1
栃 木	9	滋 賀	60	熊 本	4
群 馬	0	京 都	15	大 分	2
埼 玉	70	大 阪	50	宮 崎	9
千 葉	12	兵 庫	12	鹿 児 島	10
東 京	47	奈 良	4	沖 縄	5
神奈川	7	和歌山	1	小計	53 名
		鳥 取	4	【国内計】	643 名
		島 根	17	【国外】	4 名
				正会員総数	647 名
				海外会員	41
※個人会員総数（正会員 647＋学生会員 124＋名誉会員 21＋永年会員 68＋海外会員 40）					901 名

表 2 会員数の資格別内訳とその推移

年次	会員 総数	対前 年差	名誉	永年	正	学生	海外	特別	購読	備 考
2011	1,187	+15	16	49	843	161	－	39	79	各年 3～5 月期の集計
2012	1,138	－49	17	53	809	147	－	38	74	
2013	1,150	+12	19	57	818	149	－	38	69	
2014	1,132	－18	21	60	811	135	－	39	66	
2015	1,116	－16	22	64	786	141	－	39	64	
2016	1,119	+3	20	66	790	141	－	42	60	2019 年 4 月 1 日以前の 数字は、任意団体にお ける会員数
2017	1,109	－10	19	69	778	140	－	42	61	
2018	1,118	+9	19	69	775	153	－	43	59	
2019	1,076	－42	19	72	764	123	－	42	56	
2020	1,051	－25	17	80	744	112	2	43	53	
2021	999	－49	18	80	674	99	36	41	51	2021 年 5 月現在
2022	986	－12	20	82	666	94	39	39	46	2022 年 5 月現在
2023	966	－20	19	72	666	98	40	38	46	2023 年 5 月現在
2024	997	+31	19	72	658	128	41	36	43	2024 年 5 月現在
2025	974*	－23	21	68	647	124	41	33	40	2024 年 5 月現在

*：グループ会員：498 名（正会員 390 名，学生会員 108 名）

表3 農業食料工学会誌第86巻第1号～第87巻第1号の構成

掲載内容		86巻								87巻	85巻
		1号	2号	3号	4号	5号	6号	合計	平均	1号	平均
論 説	頁数	2	2	2	2	2	2	12	2.0	2	2.0
研究論文	件数	3	－	2	2	1	3	11	1.8	－	1.7
	頁数	20	－	25	19	8	24	96	16.0	－	13.5
技術論文	件数	1	1	－	1	1	－	4	0.7	2	0.8
	頁数	8	11	－	5	7	－	31	5.2	17	8.7
速 報	件数	1	－	－	1	－	1	3	0.5	1	0.5
	頁数	3	－	－	3	－	3	9	1.5	4	1.7
資 料	件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	頁数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
レビュー	件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	頁数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
文献紹介	件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	頁数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
特 集	件数	4	3	6	3	3	8	27	4.5	4	3.7
	頁数	17	16	35	16	18	50	152	25.3	20	19.8
テクノピックス	件数	1	1	1	1	1	1	6	1.0	1	1.0
	頁数	3	2	3	3	2	5	18	3.0	3	2.5
解 説	件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	頁数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
研究紹介	件数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	頁数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
特別会員コーナー	頁数	3	3	3	3	3	3	18	3.0	3	3.0
支部コーナー	頁数	5	1	4	1	0	2	13	3.3	8	2.4
部会コーナー	頁数	2	0	1	1	0	0	4	0.7	1	1.5
委員会コーナー	頁数	1	0	0	1	0	0	2	0.7	0	1.0
会 告	頁数	44	19	17	17	7	6	110	18.3	40	13.7
ニュース・声	頁数	5	2	6	5	6	31	55	9.2	8	9.3
目次・広告・その他	頁数	7	10	8	8	44	17	94	15.7	8	8.8
総 頁 数		120	66	104	84	97	143	614	102.3	114	95.5

頁数の平均は0頁を除いた平均で示した。

- 特 集 (86-1) 2023年度 農業食料工学会開発賞の概要
 (86-2) ポストハーベスト技術の最前線
 (86-3) 農山漁村エネルギーマネジメントシステム (VEMS) の研究開発に向けた取り組み
 (86-4) みどりの食料システム戦略に資する施肥技術
 (86-5) 農薬施用技術の動向 ― 近年の動き ―
 (86-6) 農業・食品機械の歩み 2024
 (87-1) 2024年度農業食料工学会開発賞の概要

- その他 (86-6) 受賞論文梗概 (森技術賞・研究奨励賞・論文賞(研究論文・技術論文))
 (86-6) 農業食料工学会誌第86巻総目次

Ⅳ 2024 年度 決算報告及び会計監査報告〔4号議案〕

表 4 2024 年度 決算（一般会計）

期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

（その 1） 収入の部

単位：円

項 目	予算額	決算額	決算/予算 比率（%）
1. 前年度繰越金	2,699,634	2,699,634	100.0
2. 会費	7,687,000	8,938,415	116.3
（内訳） a. 特別会員	2,550,000	2,450,000	96.1
b. 正会員	4,281,000	5,544,225	129.5
c. 学生会員	246,000	246,190	100.1
d. 海外会員	82,000	12,000	14.6
e. 購読会員	528,000	686,000	129.9
3. 出版物収入	305,000	237,628	77.9
（内訳） a. 学会誌売上	120,000	139,930	116.6
b. 講演要旨	0	16,290	－
c. 刊行物収入	5,000	0	0.0
d. 著作権収入	180,000	81,408	45.2
4. 大会参加費	2,400,000	1,016,489	42.4
5. 広告収入	2,200,000	2,616,000	118.9
6. 掲載論文関係費	1,680,000	1,390,880	82.8
（内訳） a. 別刷り	700,000	570,000	81.4
b. 超過等負担金	980,000	820,880	83.8
7. 預金利息	25	725	2,900.0
8. 雑収入	296,000	1,019,018	344.3
9. 立替金戻り	424,000	424,146	100.0
合 計	17,691,659	18,342,935	103.7

(その2) 支出の部

単位：円

項 目	予算額	決算額	決算/予算 比率 (%)
1. 会議費	50,000	40,573	81.1
2. 事務費	6,920,000	7,478,373	108.1
(内訳) a. 消耗品	250,000	166,089	66.4
b. 通信費	600,000	920,390	153.4
c. 旅費・交通費	250,000	182,505	73.0
d. 給与・賃金・法定福利費	5,220,000	5,445,067	104.3
e. 事務所経費	250,000	242,941	97.2
f. OA 機器整備費	150,000	294,044	196.0
g. 法人管理費	200,000	227,337	113.7
3. 事業費	9,346,000	8,870,087	94.9
(内訳) a. ブロック補助費	600,000	601,000	100.2
b. 学会誌発行費	5,546,000	5,724,585	103.2
(内訳) イ. 編集費	616,000	713,836	115.9
ロ. 印刷費	3,900,000	4,082,416	104.7
ハ. 発送費	570,000	695,463	122.0
ニ. 別刷印刷費	260,000	232,870	89.6
ホ. J-STAGE 掲載費	200,000	0	0.0
c. 大会費	1,490,000	957,000	64.2
(内訳) イ. 大会開催費	1,490,000	957,000	64.2
ロ. 要旨等制作費	0	0	—
d. 委員会等費	60,000	58,660	97.8
e. 部会運営費	160,000	82,000	51.3
f. 幹事活動費	340,000	280,000	82.4
g. 学会賞費	250,000	312,732	125.1
h. 若手支援費	300,000	300,000	100.0
i. 国際活動支援費	400,000	410,000	100.0
j. 役員選挙費	200,000	154,110	77.1
4. 負担金	250,000	257,006	102.8
5. 雑費	20,000	0	0.0
6. 予備費	0	64,090	—
7. 立替金	0	0	—
8. 次年度繰越金	1,105,659	1,622,806	147.7
合 計	17,691,659	18,342,935	103.7

注記：上記の資金の範囲には現金と預金を含みます。

表 5 貸借対照表（一般会計）

（2025 年 3 月 31 日）

単位:円

資産の部		正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	141,518	次年度繰越金	1,622,806
郵便振替	1,071,943		
銀行預金（普通口座）	409,345		
合 計	1,622,806	合 計	1,622,806

注記：上記の資金の範囲には現金と預金を含みます。

表6 収支計算書（特別会計）

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

（その1）基本金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	予算	決算	項 目	予算	決算
前年度繰越金	24,913,173	24,913,173	引 出	0	0
（内訳）定期預金	24,130,236	24,130,236	手数料等	0	0
普通預金	782,937	782,937	次年度繰越金	24,913,573	24,913,881
積立金	0	0	（内訳）定期預金	24,130,236	24,130,340
預金利息	400	708	普通預金	783,337	783,541
合 計	24,913,573	24,913,881	合 計	24,913,573	24,913,881

銀行預金内訳： 三井住友信託銀行：10,192,140 円（定期：10,000,000 円＋普通：192,140 円）
 三菱UFJ銀行：6,539,736 円（定期：6,130,340 円＋普通：409,396 円）
 川口信用金庫：8,182,005 円（定期：8,000,000 円＋普通：182,005 円）

（その2）森基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	予算	決算	項 目	予算額	決算
前年度繰越金	1,260,050	1,260,050	引 出	0	0
（内訳）定期預金	1,260,050	1,260,050	賞品・選考費	0	0
普通預金	0	0	次年度繰越金	1,260,070	1,260,072
積立金	0	0	（内訳）定期預金	1,260,070	1,260,072
預金利息	20	22	普通預金	0	0
合 計	1,260,070	1,260,072	合 計	1,260,070	1,260,072

銀行預金内訳： 三菱UFJ銀行：1,260,072 円（定期：1,260,072 円＋普通：0 円）

（その3）岸田国際学術奨励基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	予算	決算	項 目	予算	決算
前年度繰越金	1,418,243	1,418,243	賞品・選考費	0	0
（内訳）定期預金	1,000,021	1,000,021	手数料等	—	76,970
普通預金	418,222	418,222	会議費（ISMAB2024）	—	9,073,139
積立金	0	0	旅費・謝金（ISMAB2024）	—	747,199
預金利息	20	2,112	その他（諸経費送金等）	—	925,000
ISMAB2024 参加費等	—	12,571,821	次年度繰越金	1,418,263	3,317,260
雑収入	—	147,392	（内訳）定期預金	1,000,021	1,000,021
			普通預金	418,242	2,317,239
合 計	1,418,263	14,139,568	合 計	1,418,263	14,139,568

銀行預金内訳： みずほ銀行：3,317,260 円（定期：1,000,021 円＋普通：2,317,239 円）

(その4) 学術活動基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	予算	決算	項 目	予算	決算
前年度繰越金	3,706,479	3,706,479	準備金(シンポジウム等)	1,200,000	540,000
(内訳) 定期預金	0	0	手数料等	3,000	1,045
普通預金	3,706,479	3,706,479	会議費(シンポジウム等)	500,000	265,100
預金利息	30	497	旅費・謝金等	300,000	29,428
参加費・広告料等	750,000	1,114,896	その他(諸経費送金等)	0	1,145,489
返納金(シンポジウム等)	400,000	806,489	次年度繰越金	2,853,509	3,781,634
雑収入	0	134,335	(内訳) 定期預金	0	0
			普通預金	2,853,509	3,781,634
合 計	4,856,509	5,762,696	合 計	4,856,509	5,762,696

銀行預金内訳： ゆうちょ銀行：3,781,634 円（定期： 0 円＋普通：3,781,634 円）

注記：上記の資金の範囲には現金と預金を含みます。

表 7 総合貸借対照表

(2025 年 3 月 31 日)

単位：円

資産の部		正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【一般会計】		【一般会計】	
現金預金	1,622,806	次年度繰越金	1,622,806
(内訳) 現 金	141,518		
郵便振替	1,071,943		
銀行預金(普通口座)	409,345		
【特別会計】		【特別会計】	
預金(基本金)	24,913,881	次年度繰越金(基本金)	24,913,881
(内訳) 三井住友信託銀行	10,192,140	次年度繰越金(森基金)	1,260,072
三菱 UFJ 銀行	6,539,736	次年度繰越金(岸田国際学術奨励基金)	3,317,260
川口信用金庫	8,182,005	次年度繰越金(学術活動基金)	3,781,634
預金(森基金)	1,260,072		
(内訳) 三菱 UFJ 銀行	1,260,072		
預金(岸田国際学術奨励基金)	3,317,260		
(内訳) みずほ銀行	3,317,260		
預金(学術活動基金)	3,781,634		
(内訳) ゆうちょ銀行	3,781,634		
資産合計	34,895,653	正味財産合計	34,895,653

注記：上記表中の資金の範囲には現金と預金を含みます。

監査の結果、適正と認めます。

2025（令和 7）年 5 月 14 日

一般社団法人 農業食料工学会 監事

小林 研

一般社団法人 農業食料工学会 監事

志藤 博克

V 「農業食料工学会誌」の電子ジャーナル化について〔5号議案〕

1. 審議事項

2024年度第4回理事会（2024年9月7日開催）及び第6回理事会（2024年12月7日開催）での審議を経て、当学会機関誌「農業食料工学会誌」を、冊子体での発行を終了し、電子ジャーナルとして発行することとする以下の方針（案）が決定された。そこで、本総会において、同案を審議の上、承認をいただきたい。

- 1) 当学会の機関誌「農業食料工学会（以下、学会誌）」は、しかるべき時期に冊子体での発行を停止し、以後、電子ジャーナル（「学会誌」のバックナンバーを掲載中の J-Stage 上での公開）として発行する。

補足1：今回、前記の事項を提案するに至った主な理由は以下のとおり。

- ・現在、社会的要請として、学術論文掲載誌には、オープンアクセス化と即時公開が求められている。
- ・発行経費は、現行の冊子体と電子ジャーナル(J-Stage)とを比較すると、印刷費で約 1/3、発送費や別刷り印刷経費が不要となる事などから、経費削減効果が大きい。
- ・編集等の作業負担については、冊子体から電子ジャーナルへ移行しても、それほど変わらないと想定される。

- 2) 学会誌の電子ジャーナルへの移行時期は、第88巻1号（2026年1月）からの実施を目途とする。

- 3) 学会誌の電子ジャーナルへの移行に伴う以下の事項については、電子ジャーナルへの移行までに、代替あるいは対応するための対策を理事会において検討し、決定する。

- a) 別刷・超過頁図表等料、カラー印刷経費等
- b) 広告掲載料
- c) 購読会員

補足2：上記a)～c)についての検討状況は、以下のとおり。

- a) 掲載論文1報当たりの基準ページ数は現行のとおりとし、「掲載料」と「超過頁」の2種類の料金設定を検討中である。一方、図表の単位（誌面を占める大きさ）に対する超過料は廃止する。また、図表等はカラーで掲載できるため、従来のカラー印刷経費は不要となる。
- b) J-Stage では、広告掲載ができないため、別の方法での広告収入を検討する予定。
- c) 学会誌とは別の情報提供の手段を検討し、できるだけ会員の継続を図る予定。

なお、本議案は、下記の当学会の「定款」「第六章 総会」の「第24条」の(4)に基づく決議とする。
(権限)

第24条 総会では、次に掲げる事項を決議する。

- (1) 事業報告及び収支決算の承認
- (2) 理事及び監事の選任または解任
- (3) 定款の変更
- (4) 当法人の基本方針に関する事項の承認
- (5) その他本定款で定める事項

2. 報告事項

「学会誌」の以下の事項については、前記の第4回理事会（2024年9月7日開催）及び第6回理事会（2024年12月7日開催）での審議を経て決定され、現在既に実施中であるが、改めて報告する。

1) 2025年1月発行の学会誌（87巻1号）は、従来どおり冊子体で発行する。

2) 2025年1月より、学会誌の年間発行回数を「4回」とする。

その発行時期は、当該年の1月、4月、7月、10月を目安とする。

補足：今回、前記の事項を実施するに至った主な理由は以下のとおり。

1) 最近の諸物価高騰の影響を受け、学会誌発行に関連する経費が増加し、このままでは将来的に学会財務上の支障が生ずることが明らかとなったこと。

2) 従来から学会誌編集担当者の作業負担が大きかったこと。

3) 学会誌の発行回数を年6回から4回に変更することで、印刷及び配送経費の削減ともに、編集業務の負担軽減が図られること。

4) 今回の発行回数の変更に当たっては、会費及び本誌の年間の購読に係る経費、論文投稿に係る諸規程は変更の必要がなく、学会誌への論文掲載後に納付する費用（別刷・超過頁料金等）の算定方法等の変更も無いため、会員に与える負担が少ないと想定されたこと。

なお、以上の決定は、下記の「定款」「第七章 理事会」の「第30条」の(2)に基づいて行われた。

(権限)

第30条 理事会は、当法人の任務を遂行し、この定款に定めるもののほか、次の職務を行う。

(1) 総会に付議する事項

(2) 各種規程の制定、変更及び廃止に関する事項

(以下省略)

VI 2025 年度事業計画（案） [6号議案]

1. 2025 年度定時総会：

期日：2025 年 6 月 21 日（土）

場所：Zoom によるオンライン会議

2. 会員集会及び学会賞表彰式：

期日：2025 年 9 月 12 日（金）

場所：三重大学（三重県津市栗真町屋町 1577）

3. 第 83 回（2025 年）年次大会：

期日：2025 年 9 月 11 日（木）～13 日（土）

場所：三重大学（三重県津市栗真町屋町 1577）

4. 理事会を次の日程で開催する。

年度内に 7 回程度を開催予定（グループウェア審議を含む）

第 1 回：2025 年 5 月 31 日（土）

第 2 回：2025 年 6 月 21 日（土）（臨時）

第 3 回：2025 年 7 月～8 月（グループウェア審議）

第 4 回：2025 年 9 月 11 日（木）（第 82 回（2024 年）年次大会期間中）

第 5 回：2025 年 9 月～10 月（グループウェア審議）

第 6 回：2025 年 12 月上旬

第 7 回：2025 年 12 月下旬～2026 年 1 月上旬（グループウェア審議）

5. 委員会の活動

1) 庶務委員会

- ・委員会：必要に応じて開催予定
- ・総会，理事会（7 回程度開催予定）に係わる業務，文書の接受及び施行，規程等の整備，業務の調整などを行う。

2) 財務委員会

- ・委員会：必要に応じて開催予定
- ・2025 年度の財務状況管理及び決算，並びに，2026 年度予算に係わる業務などを行う。

3) 編集委員会

- ・合同編集委員会：年次大会の際に開催予定
- ・情報誌担当小委員会：随時，メール・電話にて会議を行う予定
- ・論文誌担当小委員会：随時，メール・電話にて会議を行う予定
- ・学会誌の編集・発行：第 87 巻第 4 号～第 88 巻第 3 号
- ・第 17 回（2025 年）論文賞の受賞候補を選考し決定する。
- ・87 巻 4 号発行と合わせて 86 巻 5，6 号までを J-STAGE に公開し，87 巻については 88 巻の公開と合わせて順次 J-STAGE に公開する。

4) 企画委員会

- ・委員会：3 回程度開催予定
- ・シンポジウム：2 回開催予定
 - ① フードテクノロジー（フーテック）フォーラム 2025
テーマ：『シン・医食同源 ～フードテック meets デジタルヘルス～』
日時：2025 年 6 月 13 日（金）10：30～15：20
場所：東京ビッグサイト 会議棟 6 階「605+606」
 - ② 第 29 回テクノフェスタ
テーマ：未定
日時：2025 年 11 月 7 日（金）（予定）
場所：農機研（大宮）にて対面開催

5) 表彰委員会

- ・委員会：必要に応じて開催する
- ・2025 年度（令和 7 年度）学会賞授与
森技術賞 1 件，技術奨励賞 1 件，功績賞 2 件（個人 1 名，1 団体）
- ・2026 年度（令和 8 年度）学会賞選考
2025 年 8 月末推薦締め切り
- ・2026 年度日本農学賞，農学進歩賞の候補者の選考
2025 年 3 月末推薦締め切り
- ・日本農業工学会賞 2026 の候補者の選考
2025 年 7 月末推薦締め切り

6) 情報委員会

- ・委員会：1 回程度開催予定の他，メール会議を必要に応じて開催
- ・メーリングリストによる会員向け情報の配信
- ・本部学会および各支部 Web サイトの適宜更新と管理
- ・会員向けページの情報拡充と会員情報の管理方法の検討
- ・Web サイトの情報拡充と運用方法の検討

7) 国際交流委員会

- ・委員会：1 回程度開催予定，その他メール会議を必要に応じて開催予定
- ・国際交流の実績情報を取りまとめるアンケート調査（第 2 回目）の実施
- ・若手研究者海外学会発表支援事業「Travel Award」
- ・若手海外研究者招聘事業

8) 産官学連携委員会

- ・委員会：年に 2 回程度開催予定
- ・開発賞応募テーマについて，選考委員へ選考を依頼する（2025 年 4 月）。
- ・選考結果から開発賞受賞候補を決定し，理事会に諮る（2025 年 6 月～7 月）。
- ・開発賞受賞講演，特集等への対応を行う（2025 年 7 月～2024 年 12 月）。
- ・2026 年度（令和 8 年度）開発賞の公募を行う（2026 年 1 月）。

9) EAEF 誌編集委員会

- ・国内編集委員会および JSAM, KSAM, CIAM の合同 EIC 会議について
必要に応じてメール審議またはオンライン会議で随時開催する。
- ・ESCI への申請について
編集体制が整ったのち、ESCI に申請する。
- ・EAEF 第 18 巻 1 号から 4 号までを発行する。

10) AABEA-JSAM 委員会

- ・委員会：年に 2 回程度開催予定
検討事項：2025 年度の活動計画（案），2025 年度以降の委員会のあり方等

11) 広報・会員対応委員会

- ・同委員会は、一旦活動を休止する。広報及び会員への対応については、別途検討する。

12) 他学会対応委員会

- ・同委員会は、一旦活動を休止する。他学会への対応については、別途検討する。

13) 年次大会・プログラム専門委員会

- ・農業食料工学会 第 83 回（2025 年）年次大会
期日：2025 年 9 月 11 日（木）～13 日（土）
場所：三重大学（三重県津市栗真町屋町 1577）
大会 HP：<https://am.j-sam.org/2025/>
- ・委員会：対面での会議及びオンライン・メール会議等を適宜開催する。
- ・大会内容：講演発表（一般セッション、オーガナイズドセッション）、ポスターセッション、シンポジウム、実行委員会企画、会員集会（学会賞表彰式）、理事会、各種委員会、企業展示等を実施する。
- ・講演プログラムの編成を行う。

6. 部会の活動

1) 農業機械部会

- ・運営委員会：セミナー等に合わせて対面にて開催を予定し、必要に応じてメール会議を行う。
- ・シンポジウム、または、セミナー等を企画・連携し、開催する。
- ・その他部会に関連する活動の支援を検討する。

2) 食料・食品工学部会

- ・運営委員会は、必要に応じてメールまたはオンラインで開催する。
- ・フーテックフォーラムへの企画協力を進める。
- ・書籍「ポストハーベスト工学」の出版を進める。

3) IT・メカトロニクス部会

- ・運営委員会：年 1 回開催予定。適宜メールでの情報交換を行う。
- ・年次大会でのオーガナイズドセッションの企画
- ・テクノフェスタの企画協力 自動運転分科会の企画・運営
- ・セミナーの開催。テーマ、開催時期は未定。

4) 生物資源部会

- ・運営委員会：2 回程度開催予定
- ・2025 年農業食料工学会年次大会においてオーガナイズドセッションを実施する予定。
- ・英語書籍の発行に向けた活動を行う。
- ・2025 年度第 30 回テクノフェスタにおいて生物資源分科会を開催する予定。
- ・その他部会に関連する活動の支援を検討する。

7. 協賛・後援事業

A. ブロック活動

1) 北海道ブロック（北海道農業機械学会）

- ・幹事会 2025（令和 7）年 6 月（開催日未定）
- ・『テーマセッション 2025』（テーマ未定）
期日：2025（令和 7）年
場所：札幌市(予定)
内容：テーマに基づく講演とディスカッション
- ・北海道ブロックの HP 定期更新 2025（令和 7）年 8 月

2) 東北ブロック（農業食料工学会東北支部）

- ・令和 7 年度（2025）農業食料工学会東北支部大会
期日：2025 年 8 月 21 日～22 日（予定）
場所：宮城県仙台市（詳細未定）
内容：総会，研究発表会，シンポジウム，現地見学会
- ・幹事会
常任幹事会：2 回，幹事会：1 回
- ・東北若手の会
2025 年 8 月（予定）
- ・支部報の刊行 第 72 号 2025 年 12 月

3) 関東ブロック（関東農業食料工学会）

- ・2025 年度関東農業食料工学会年次大会（第 61 回）
期日：未定
場所：未定
内容：講演会，評議員会，総会，ベストペーパー奨励賞表彰式，情報交換会
- ・2025 年度関東農業食料工学会セミナー
開催予定（期日未定）
- ・第 9 回 初学の会
開催予定（期日未定）
- ・関東農業食料工学会報
No. 168～171 発行予定

4) 関西ブロック

- ・第 154 回例会
期日：2025 年 9 月 27（土）～28 日（日）
場所：愛媛大学農学部開催予定

内容：研究発表会，見学会，学会賞表彰，懇親会等

・2025 年度第 1 回幹事会

期日：2025 年 9 月 28 日（日）予定

場所：第 154 回例会開催に伴い愛媛大学農学部にて開催予定

・第 155 回例会

期日：2026 年 3 月初旬予定

場所：神戸大学大学院農学研究科

内容：卒論発表会

・2025 年度第 2 回幹事会

期日：2026 年 3 月初旬予定

場所：第 155 回例会開催に伴い神戸大学大学院農学研究科にて開催予定

・会報第 138 号：2025 年 6 月 1 日発行予定

・会報第 139 号：2026 年 2 月 1 日発行予定

5) 九州ブロック

- ・幹事会の開催
- ・第 79 回九州農業食料工学会例会開催
- ・九州農業食料工学会誌第 75 号刊行
- ・各種委員会活動
- ・学会賞・優秀講演賞の表彰

B. セミナー・学会等

1) 第 158 回ロボット工学セミナー

主催：（一社）日本フロボット学会

開催日：2025 年 5 月 29 日 東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ビル 5F 武田ホール（東京都文京区）及び オンライン配信

2) ロボティクス・メカトロニクス講習会 2025

主催：（一社）日本機械学会

開催日：2025 年 6 月 4 日～7 日 山形ビッグウイング（山形県山形市）

3) 美味技術学会 2025 年度シンポジウム

主催：美味技術学会

開催日：2025 年 6 月 12 日 東京ビッグサイト会議棟 6 階「605+606」（東京都江東区）

4) 2025 年春季フルードパワーシステム講演会

主催：（一社）日本フルードパワーシステム学会

開催日：2025 年 6 月 19 日～20 日 機械振興会館（東京都港区）

5) 第 159 回ロボット工学セミナー

主催：（一社）日本ロボット学会

開催日：2025 年 6 月 20 日 オンライン開催

6) Dynamics and Design Conference 2025

主催：（一社）日本機械学会 機械力学・計測制御部門

開催日：2025 年 8 月 25 日～28 日 琉球大学 千原キャンパス（沖縄県中頭郡）

7) 第 43 回日本ロボット学会学術講演会

主催：（一社）日本ロボット学会

開催日：2025 年 9 月 2 日～5 日 東京科学大学・大岡山キャンパス（東京都目黒区）

8) 第41回ファジィシステムシンポジウム(FSS2025)

主催：日本知能情報ファジィ学会(SOFT)

開催日：2025年9月4日 くまもと県民交流館パレア（熊本県熊本市）

9) 第68回自動制御連合講演会

主催：日本機械学会（幹事学会），計測自動制御学会，システム制御情報学会，化学工学会，精密工学会，電気学会，日本航空宇宙学会

開催日：2025年11月1日～11月2日 名古屋大学 東山キャンパス（愛知県名古屋市）

10) 第41回近赤外フォーラム

主催：近赤外研究会

開催日：2025年11月12日～14日 東京大学農学部 弥生講堂（東京都文京区）

8. 関連学会等

1) 日本学術会議

協力学術研究団体として日本学術会議の活動に協力する。本会会員からは，第26期（2023年10月～2026年9月）の連携会員として，飯田訓久氏，伊藤博通氏，岡安崇史氏，澁澤 栄氏，高橋憲子氏，野口 伸氏，羽藤堅治氏，安永円理子氏がその任に当たる。

2) 日本農学会

日本農学会の加盟学会として活動する。当学会の代表者として，飯田訓久氏がその任に当たる。また，運営委員として，五月女格氏がその任に当たる。

・第96回（2025年度）日本農学大会

日時：2025年4月5日（土）10:00～16:30

場所：東京大学農学部 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）及びオンライン配信

3) 日本農業工学会

日本農業工学会の所属学会として活動する。副会長として，飯田訓久氏がその任に当たる（任期：2024年5月～2027年5月）。また，正会員代議員として澁澤 栄氏，海津 裕氏がその任に当たり，国際会員代議員として五月女 格氏がその任に当たる（任期：2024年5月～2027年5月）。

・第41回（2025年度）日本農業工学会総会

日時：2025年5月10日（土）11:30～12:30

場所：東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生1-1-1）

・2025年度日本農業工学会フェロー・学会賞・新農林社賞・功績賞授賞式，日本農業工学会賞2025受賞者講演会

日時：2024年5月10日（土）13:00～17:00

場所：東京大学農学部 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー（東京都文京区弥生1-1-1）

4) 農業環境工学系学会連盟

連盟の所属学会として活動する。委員として飯田訓久氏が，幹事として北村 豊氏がそれぞれの任に当たる。

5) AABEA (EAEF, ISMAB)

AABEA(Asian Agricultural and Biological Engineering Association)および英文誌 EAEF (Engineeing in Agriculture, Environmental and Food)，ならびに ISMAB(International Symposium

on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering)に係る, CIAM(Chinese Institute of Agricultural Machinery), KSAM(Korean Society for Agricultural Machinery)との協議や調整について, AABEA-JSAM 委員会がこれに当たる。

9. その他

Ⅶ 2025 年度予算（案） [7 号議案]

表 8 予算（一般会計）

期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

（その 1） 収入の部

単位：円

項 目	2024 年度 決算算	2025 年度 予算	予算/決算 比率 (%)	平均値 (過去 5 年決算)
1. 前年度繰越金	2,699,634	1,622,806	60.1	6,039,236
2. 会費	8,938,415	8,150,000	91.2	9,189,326
（内訳） a. 特別会員	2,450,000	2,250,000	91.8	2,680,000
b. 正会員	5,544,225	5,076,000	91.6	5,574,615
c. 学生会員	246,190	264,000	107.2	313,243
d. 海外会員	12,000	80,000	666.7	28,400
e. 購読会員	686,000	480,000	70.0	593,068
3. 出版物収入	237,628	170,000	71.5	398,498
（内訳） a. 学会誌売上	139,930	90,000	64.3	170,086
b. 講演要旨	16,290	0	—	6,658
c. 刊行物収入	0	0	—	2,308
d. 著作権収入	81,408	80,000	98.3	219,446
4. 大会参加費	1,016,489	1,630,000	160.4	818,608
5. 広告収入	2,616,000	1,350,000	51.6	2,352,200
6. 掲載論文関係費	1,390,880	1,550,000	111.4	2,151,439
（内訳） a. 別刷り	570,000	730,000	128.1	870,000
b. 超過等負担金	820,880	820,000	99.9	1,281,439
7. 預金利息	725	200	27.6	176
8. 雑収入	1,019,018	1,310,000	128.6	444,813
9. 立替金戻り	424,146	0	0.0	—
合 計	18,342,935	15,783,006	86.0	21,573,514

(その2) 支出の部

単位：円

項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算	予算/決算 比率 (%)	平均値 (過去5年決算)
1. 会議費	40,573	50,000	111.0	141,590
2. 事務費	7,478,373	7,120,000	95.2	7,179,188
(内訳) a. 消耗品	166,089	200,000	120.4	243,581
b. 通信費	920,390	800,000	86.9	747,838
c. 旅費・交通費	182,505	200,000	109.6	210,568
d. 給与・賃金・法定福利費	5,445,067	5,250,000	96.4	5,341,963
e. 事務所経費	242,941	250,000	102.9	250,101
f. OA 機器整備費	294,044	200,000	68.4	198,278
g. 法人管理費	227,337	220,000	96.8	186,860
3. 事業費	8,870,087	7,493,000	84.4	8,701,194
(内訳) a. ブロック補助費	601,000	600,000	99.8	600,320
b. 学会誌発行費	5,724,585	3,803,000	66.4	6,028,621
(内訳) イ. 編集費	713,836	613,000	85.9	652,069
ロ. 印刷費	4,082,416	2,130,000	52.1	4,267,490
ハ. 発送費	695,463	270,000	38.8	663,214
ニ. 別刷印刷費	232,870	120,000	51.5	286,503
ホ. J-STAGE 掲載費	0	670,000	—	159,346
c. 大会費	957,000	1,630,000	170.3	667,874
(内訳) イ. 大会開催費	957,000	1,630,000	170.3	667,874
ロ. 要旨等制作費	0	0	—	9,936
d. 委員会等費	58,660	110,000	187.5	153,868
e. 部会運営費	82,000	160,000	195.1	88,400
f. 幹事活動費	280,000	340,000	121.4	348,000
g. 学会賞費	312,732	250,000	79.9	292,480
h. 若手支援費	300,000	300,000	—	297,480
i. 国際活動支援費	410,000	300,000	—	—
j. 役員選挙費	154,110	0	—	—
4. 負担金	257,006	250,000	97.3	270,897
5. 雑費	0	20,000	132.2	15,992
6. 予備費	64,090	0	—	433,506
7. 立替金	0	0	0.0	—
8. 次年度繰越金	1,622,806	860,006	53.0	5,824,671
合 計	18,342,935	15,793,006	86.1	23,068,194

注記：上記の資金の範囲には現金と預金を含みます。

表 9 予算（特別会計）

期間：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

（その 1）基本金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算	項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算
前年度繰越金	24,913,173	24,913,881	引 出	0	0
（内訳）定期預金	24,130,236	24,130,340	手数料等	0	0
普通預金	782,937	783,541	次年度繰越金	24,913,881	24,914,581
積 立 金	0	0	（内訳）定期預金	24,130,340	24,130,340
利 息	708	700	普通預金	783,541	784,241
合 計	24,913,881	24,914,581	合 計	24,913,881	24,914,581

銀行預金内訳： 三井住友信託銀行：10,192,140 円（定期：10,000,000 円＋普通：192,140 円）
 三菱 UFJ 銀行： 6,539,736 円（定期： 6,130,340 円＋普通：409,396 円）
 川口信用金庫： 8,182,005 円（定期： 8,000,000 円＋普通：182,005 円）

（その 2）森基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算	項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算
前年度繰越金	1,260,050	1,260,072	引 出	0	0
（内訳）定期預金	1,260,050	1,260,072	賞品・選考費	0	0
普通預金	0	0	次年度繰越金	1,260,072	1,260,092
積 立 金	0	0	（内訳）定期預金	1,260,072	1,260,092
預金利息	22	20	普通預金	0	0
合 計	1,260,072	1,260,092	合 計	1,260,072	1,260,092

銀行預金内訳： 三菱 UFJ 銀行：1,260,072 円（定期：1,260,072 円＋普通：0 円）

（その 3）岸田国際学術奨励基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算	項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算
前年度繰越金	1,418,243	3,317,260	賞品・選考費	0	0
（内訳）定期預金	1,000,021	1,000,021	手数料等	76,970	0
普通預金	418,222	2,317,239	会議費 (ISMAB2024)	9,073,139	0
積 立 金	0	0	旅費・謝金 (ISMAB2024)	747,199	0
利 息	2,112	20	その他(諸経費送金等)	925,000	1,899,017
ISMAB2024 参加費等	12,571,821	0	次年度繰越金	3,317,260	1,418,263
雑収入	147,392	0	（内訳）定期預金	1,000,021	1,000,021
		0	普通預金	2,317,239	418,242
合 計	14,139,568	3,317,280	合 計	14,139,568	3,317,280

銀行預金内訳： みずほ銀行：3,317,260 円（定期：1,000,021 円＋普通：2,317,239 円）

(その4) 学術活動基金

単位：円

収入の部			支出の部		
項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算	項 目	2024 年度 決算	2025 年度 予算
前年度繰越金	3,706,479	3,781,634	準備金(シンポジウム等)	540,000	1,200,000
(内訳) 定期預金	0	0	手数料等	1,045	1,000
普通預金	3,706,479	3,781,614	会議費	265,100	400,000
預金利息	497	400	旅費・謝金等	29,428	100,000
参加費・広告料等	1,114,896	750,000	その他(諸経費送金等)	1,145,489	1,310,000
返納金(シンポジウム等)	806,489	400,000	次年度繰越金	3,781,634	3,818,051
雑収入	134,335	1,899,017	(内訳) 定期預金	0	0
			普通預金	3,781,634	3,818,051
合 計	5,762,696	6,831,051	合 計	5,762,696	6,831,051

銀行預金内訳： ゆうちょ銀行：3,781,634 円（定期：0 円＋普通：3,781,634 円）

注記：上記の資金の範囲には現金と預金を含みます。

【参考資料 2】

2025（令和 7）年 3 月 31 日現在

表 過去 10 年間の年度内収支（一般会計）

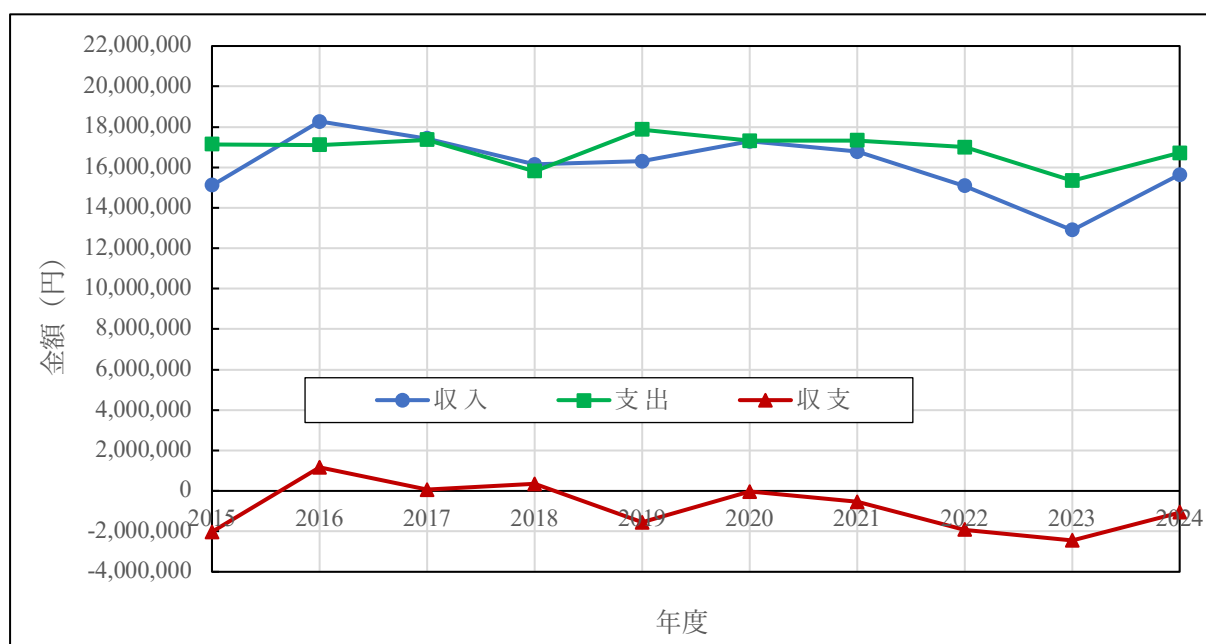
（単位：円）

年 度	2015	2016	2017	2018	2019
次年度繰越金	7,640,331	8,806,147	8,870,942	9,215,671	7,652,659
収入 (前年度繰越金除く)	15,121,258	18,271,322	17,431,903	16,148,488	16,298,480
支 出	17,143,886	17,105,506	17,367,108	15,803,759	17,861,492
収入-支出	△2,022,628	1,165,816	64,795	344,729	△1,563,012

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
繰越金	7,621,088	7,074,620	5,154,180	2,699,634	1,622,806
収 入 (前年度繰越金除く)	17,275,913	16,780,520	15,079,085	12,892,571	15,643,301
支 出	17,307,484	17,328,988	16,999,525	15,341,117	16,710,129
収入-支出	△31,571	△546,468	△1,920,440	△2,448,546	△1,066,828

※注：「△」の付いた数値はマイナス値

図 過去 10 年間の年度内収支（一般会計）の推移



一般社団法人 農業食料工学会 役員・代議員等名簿

2025 年 5 月 31 日現在

(以下敬称略)

1. 役員 (2023～2024 年度)

任期：2023 年度定時総会開催日 (2023 年 6 月 24 日) ～2025 年度定時総会開催日 (2025 年 6 月 21 日)

会 長 (代表理事) 飯田 訓久 (京都大学)

副会長 (理事) 長崎 裕司 (農研機構 農業機械研究部門)
山本 二教 (ヤンマーアグリ (株))

理 事

有馬 誠一 (愛媛大学)	飯田 訓久 (京都大学)
伊藤 博通 (神戸大学)	岩渕 和則 (北海道大学)
梅田 直円 (農研機構 農業機械研究部門)	岡安 崇史 (九州大学)
小川 幸春 (千葉大学)	海津 裕 (東京大学)
川越 義則 (日本大学)	北村 豊 (筑波大学)
小出 章二 (岩手大学)	近藤 直 (前京都大学)
鹿内 健志 (琉球大学)	竹中 秀行 ((一社) 北海道農業機械工業会)
長坂 善禎 (北里大学)	長崎 裕司 (農研機構 農業機械研究部門)
野口 伸 (北海道大学)	野口 良造 (京都大学)
山本 二教 (ヤンマーアグリ (株))	渡部 勉 (井関農機 (株)) (以上 20 名, 五十音順)

ブロック長 (理事)

北海道ブロック長 竹中 秀行 ((一社) 北海道農業機械工業会)
東北ブロック長 小出 章二 (岩手大学)
関東ブロック長 北村 豊 (筑波大学)
関西ブロック長 伊藤 博通 (神戸大学)
九州ブロック長 鹿内 健志 (琉球大学)

監 事 小林 研 (農研機構 農業機械研究部門) 志藤 博克 (農研機構 農業機械研究部門)

2. 代議員 (2023～2024 年度)

任期：2023 年度定時総会開催日 (2023 年 6 月 24 日) ～2025 年度定時総会開催日 (2025 年 6 月 21 日)

阿部 佳之	天羽 弘一	有馬 誠一	飯田 聡	飯田 訓久	石井 一暢	石田 三佳
石突 裕樹	伊藤 博通	稲葉 繁樹	今村 剛	岩渕 和則	上加 裕子	梅田 直円
梅田 大樹	裏 猛	大久保 稔	太田 智彦	大谷 隆二	大森 弘美	岡本 宗治
岡安 崇史	岡山 毅	小川 寛士	小川 雄一	小川 幸春	奥野 林太郎	小野 弘喜
海津 裕	片平 光彦	勝野 志郎	金井 源太	上窪 啓太	川上 晃司	川越 義則
河野 元信	岸本 正	北村 豊	木下 統	小出 章二	小関 成樹	小林 研
小林 有一	小松崎 将一	近藤 直	紺屋 朋子	紺屋 秀之	酒井 憲司	佐藤 禎稔

鹿内 健志	志藤 博克	清水 一史	新熊 章浩	鈴木 格仁	鈴木 尚俊	積 栄
高塚 裕一	竹中 秀行	建石 邦夫	田中 宗浩	田中 史彦	谷口 博則	近宗 克紀
張 樹槐	帖佐 直	塚本 茂善	土屋 史紀	土井 邦夫	富田 宗樹	中川 渉
長坂 善禎	長崎 裕司	中野 浩平	西津 貴久	野口 伸	野口 良造	野波 和好
萩原 昌司	長谷川 英夫	八谷 満	羽藤 堅治	原 正純	日高 茂實	平井 康丸
藤岡 修	藤本 与	古屋 慎一郎	前田 武己	牧原 邦充	町田 正人	松井 正実
松川 雅彦	松島 秀昭	水野 英則	深山 大介	元林 浩太	森本 英嗣	門田 充司
山根 俊	山本 二教	(以上 100 名, 五十音順, 所属省略)				

3. 代議員 (2025～2026 年度)

任期：2025 年度定時総会開催日 (2025 年 6 月 21 日) ～2027 年度定時総会開催日 (2027 年 6 月開催予定)

阿部 佳之	荒木 徹也	有馬 誠一	飯嶋 渡	飯田 訓久	石井 一暢	石田 三佳
石突 裕樹	伊藤 博通	稲葉 繁樹	今泉 鉄平	岩渕 和則	上加 裕子	臼井 善彦
梅田 直円	梅田 大樹	江川 史洋	大橋 慎太郎	大森 弘美	岡安 崇史	岡山 毅
小川 幸春	小川 寛士	折笠 貴寛	海津 裕	片平 光彦	勝野 志郎	亀井 雅浩
川上 晃司	川上 昭太郎	川越 義則	河野 元信	木村 敦	木下 統	黒木 信一郎
栗原 英治	小出 章二	河野 靖	小関 成樹	小林 鑑明	小林 研	小林 有一
小松崎 将一	是田 稔	近藤 直	紺屋 朋子	紺屋 秀之	坂垣内 貴保	佐々木 豊
佐藤 禎稔	佐野 安信	鹿内 健志	志藤 博克	清水 一史	新熊 章浩	杉浦 綾
鈴木 剛	鈴木 尚俊	五月女 格	高塚 裕一	高橋 仁康	竹中 秀行	建石 邦夫
田中 宗浩	田中 史彦	張 樹槐	帖佐 直	塚本 茂善	辻 八州仁	長坂 善禎
長崎 裕司	中野 浩平	難波 和彦	西津 貴久	西村 秀司	野口 伸	野口 良造
野波 和好	萩原 昌司	長谷川 英夫	八谷 満	平井 康丸	藤岡 修	藤本 与
本田 善文	前田 武己	松井 正実	松川 雅彦	松原 一晃	水野 英則	三宅 康司
深山 大介	村上 徹司	森尾 吉成	森本 英嗣	門田 充司	矢野 典弘	叶 旭君
渡辺 史郎	渡部 勉	(以上 100 名, 五十音順, 所属・敬称略)				

4. 事務局長 宮原 佳彦

一般社団法人 農業食料工学会 委員会・部会運営委員会名簿

2025 年 5 月 31 日現在

(以下敬称略)

任期：2023 年度定時総会開催日 (2023 年 6 月 24 日) ～2025 年度定時総会開催日 (2025 年 6 月 21 日)

1. 委員会

庶務委員会

委員長 野口 良造 (京都大学)

幹 事 森本 英嗣 (神戸大学) 青木 循 (農研機構 農業機械研究部門)

財務委員会

委員長 海津 裕 (東京大学)
幹 事 古橋 賢一 (東京大学)

編集委員会

委員長 (論文誌担当編集長) 有馬 誠一 (愛媛大学)
副委員長 (情報誌担当編集長) 深山 大介 (農研機構 農業機械研究部門)
常任編集委員 (論文誌担当) 稲葉 繁樹 (佐賀大学) 井原 一高 (神戸大学)
桶 敏 (石川県立大学) 小関 成樹 (北海道大学)
松井 正実 (宇都宮大学) 門田 充司 (岡山大学)
常任編集委員 (情報誌担当) 吉永 慶太 (農研機構 農業機械研究部門)
臼井 善彦 (農研機構 農業機械研究部門)
山下 貴史 (農研機構 農業機械研究部門)
中山 夏希 (農研機構 農業機械研究部門)

ブロック編集委員

(北海道ブロック) 竹中 秀行 ((一社)北海道農業機械工業会)
(東北ブロック) 金井 源太 (農研機構 東北農業研究センター)
(関東ブロック) 大橋 慎太郎 (新潟大学)
(関西ブロック) 上加 裕子 (愛媛大学)
(九州ブロック) 光岡 宗司 (九州大学)
幹事長 (論文誌担当) 上加 裕子 (愛媛大学)
(情報誌担当) 西脇 健太郎 (農研機構 農業機械研究部門)
幹 事 (論文誌担当) 梅田 大樹 (日本大学) 小長谷 圭志 (愛媛大学)
斎藤 喜人 (新潟大学) 高橋 憲子 (愛媛大学)
(情報誌担当) 大西 正洋 (農研機構 農業機械研究部門)
荒井 圭介 (農研機構 農業機械研究部門)
松本 将大 (農研機構 農業機械研究部門)

企画委員会

委員長 渡部 勉 (井関農機(株))
委 員 石井 一暢 (北海道大学) 山下 善道 (農研機構 東北農業研究センター)
大森 弘美 (農研機構 農業機械研究部門) 福島 崇志 (三重大学)
光岡 宗司 (九州大学) 山田 哲資 (農研機構 基盤技術研究本部)
松本 将大 (農研機構 農業機械研究部門) 矢野 典弘 (井関農機(株))
松原 一晃 ((株)クボタ) 橋本 悠希 ((株)サタケ)
飯田 雅也 (三菱マヒンドラ農機(株)) 佐野 安信 (ヤンマーアグリ(株))
幹 事 高塚 裕一 (井関農機(株))
幹事 (会計) 上野 優 (井関農機(株))

表彰委員会

委員長 川越 義則 (日本大学)
委 員 長崎 裕司 (農研機構 農業機械研究部門) 山本 二教 (ヤンマーアグリ(株))
岩渕 和則 (北海道大学) 梅田 直円 (農研機構 農業機械研究部門)
近藤 直 (京都大学名誉教授) 竹中 秀行 ((一社)北海道農業機械工業会)

小出 章二（岩手大学）
伊藤 博通（神戸大学）

北村 豊（筑波大学）
鹿内 健志（琉球大学）

情報委員会

委員長 岩渕 和則（北海道大学）
委 員 石井 一暢（北海道大学）
深井 智子（農研機構 農業機械研究部門）
平井 康丸（鳥取大学）
幹 事 伊藤 貴則（北海道大学）

前田 武己（岩手大学）
難波 和彦（岡山大学）

国際交流委員会

委員長 岡安 崇史（九州大学）
副委員長 小川 幸春（千葉大学）
委 員 濱中 大介（鹿児島大学）

トファエル・アハメド（筑波大学）

産学官連携委員会

委員長 梅田 直円（農研機構 農業機械研究部門）
委 員 藤岡 智則（井関農機(株)）
裏 猛（(株)クボタ）
高木 伸二一（ヤンマーアグリ(株)）
野波 和好（鳥取大学）
大森 弘美（農研機構 農業機械研究部門）
小林 有一（農研機構 基盤技術研究本部）
幹 事 紺屋 朋子（農研機構 農業機械研究部門）

松川 雅彦（三菱マヒンドラ農機(株)）
水野 英則（(株)サタケ）
西村 洋（秋田県立大学）
庄司 浩一（神戸大学）
清水 一史（農研機構 農業機械研究部門）
川原田 直也（三重県農業研究所）

EAEF 誌編集委員会

委員長 小川 幸春（千葉大学）
副委員長 難波 和彦（岡山大学）
委 員 岡山 毅（茨城大学）
今泉 鉄平（岐阜大学）
粉川 美踏（筑波大学）
小長谷 圭志（愛媛大学）
Fetra Andriamanohiarisoamanana（農研機構）
田中 章浩（農研機構 畜産研究部門）
福島 崇志（三重大学）
補 佐 西津 貴久（岐阜大学）
幹 事 山本 聡史（秋田県立大学）

光岡 宗司（九州大学）
田村 匡嗣（宇都宮大学）
濱中 大介（鹿児島大学）
斎藤 嘉人（新潟大学）
九州沖縄農業研究センター）
鈴木 哲仁（三重大学）

AABEA-JSAM 委員会

委員長（AABEA 検討, ISMAB 検討小委員長） 近藤 直（京都大学名誉教授）
AABEA 検討小委員会委員 飯田 訓久（京都大学） 岡安 崇史（九州大学）
西津 貴久（岐阜大学） 小川 幸春（千葉大学）
ISMAB 検討小委員会委員 飯田 訓久（京都大学） 岡安 崇史（九州大学）
北村 豊（筑波大学） 岩渕 和則（北海道大学）

広報・会員対応委員会

委員長 長坂 善禎（北里大学）
委員 岡本 博史（前北海道大学） 折笠 貴寛（岩手大学）
萩原 昌司（農研機構 食品研究部門） 今泉 鉄平（岐阜大学）
深見 公一郎（農研機構 九州沖縄農業研究センター）

他学会対応委員会

委員長 野口 伸（北海道大学）
委員 大谷 隆二（東北大学） 平野 高司（北海道大学）
岩渕 和則（北海道大学） 伊藤 博通（神戸大学）

2. 部会

農業機械部会

部会長 野波 和好（鳥取大学）
部会幹事長 西川 純（農研機構・農業機械研究部門）
部会幹事 川出 哲生（農研機構・農業機械研究部門）
岡田 俊輔（農研機構・西日本農業研究センター）
阪口 昌寛（(株)クボタ） 上窪 啓太（ヤンマーアグリ(株)）
小林 省吾（井関農機(株)） 木村 敦（三菱マヒンドラ農機(株)）
部会幹事（会計） 梅野 覚（農研機構・農業機械研究部門）
部会幹事世話役 平井 康丸（鳥取大学）

食料・食品工学部会

部会長 小川 幸春（千葉大学）
副部会長 川越 義則（日本大学）
運営委員 小関 成樹（北海道大学） 五月女 格（東京大学）
安永 円理子（東京大学） 西津 貴久（岐阜大学）
中野 浩平（岐阜大学） 小川 雄一（前京都大学）
黒木 信一郎（神戸大学） 田中 史彦（九州大学）
濱中 大介（鹿児島大学）
部会幹事 萩原 昌司（農研機構 食品研究部門）

IT・メカトロニクス部会

部会長 帖佐 直（東京農工大学）
副部会長 森尾 吉成（三重大学）
運営委員 長坂 善禎（北里大学） 海津 裕（東京大学）
岡安 崇史（九州大学） 森本 英嗣（神戸大学）
山本 聡史（秋田県立大学） 岡本 博史（前北海道大学）
原 圭祐（北海道立総合研究機構 中央農業試験場）
樹野 淳也（近畿大学）
深見 公一郎（農研機構 九州沖縄農業研究センター）
窪田 陽介（福島大学） 池田 信義（(株)サタケ）

	裏 猛 ((株)クボタ)	新熊 章浩 (ヤンマーアグリ(株))
	加茂田 浩史 (井関農機(株))	足立 周一 (三菱マヒンドラ農機(株))
アドバイザー	飯田 訓久 (京都大学)	野口 伸 (北海道大学)
幹 事	栗田 寛樹 (愛知工科大学)	渡辺 将央 (東京農工大学)

生物資源部会

部 会 長	井原 一高 (神戸大学)	
副部会長	田中 宗浩 (佐賀大学)	
運営委員	天羽 弘一 (畜産環境整備機構)	芋生 憲司 (日本微細藻類技術協会)
	小島 陽一郎 (農研機構・畜産研究部門)	滝沢 憲治 (三重大学)
	田中 章浩 (農研機構・畜産研究部門)	野口 良造 (京都大学)
	古橋 賢一 (東京大学)	前田 武己 (岩手大学)
	王 秀崙 (三重大学)	
幹 事	吉田 弦 (神戸大学)	石川 志保 (酪農学園大学)
	山下 善道 (農研機構 東北農業研究センター)	

一般社団法人 農業食料工学会 名誉会員名簿

2025 年 5 月 31 日現在

藍 房和	井上 英二	内野 敏剛	梅田 幹雄	大下 誠一	岡本 嗣男
川村 周三	唐橋 需	喜多 毅	木谷 収	小池 正之	小中 俊雄
酒井 憲司	笹尾 彰	瀬尾 康久	澁澤 栄	高井 宗宏	東城 清秀
並河 清	山崎 稔	行本 修			(以上 21 名, 五十音順, 敬称略)